

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270400890		
法人名	有限会社 諫早ケア・サービス		
事業所名	グループホーム くれも		
所在地	〒854-0055 長崎県諫早市栗面町810-2 (電話) 0957-24-0811		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年 3月 6日	評価確定日	平成20年 4月 9日

## 【情報提供票より】(平成20年 12月 13日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 11 人, 非常勤 6人, 常勤換算	14.9 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	19,800 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有( 円) ○		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) ○	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(12月13日現在)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名
要介護3	6 名	要介護4	2 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83.5 歳	最低 71 歳	最高 95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	満岡内科循環器内科・パークサイドデンタルクリニック
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道から少し入った住宅地の中にある当ホームは、市内において交通のアクセスの利便性の良い地域に立地している。住宅、団地がすぐ隣接しており、ホームが地域と馴染みの関係を構築することが、開設当初より重要とみなしていたことから、地域との交流にたゆまぬ努力を継続している。年2回の地域の方を招いての交流行事への取り組みがその一例である。管理者は長年にわたる介護の現場での経験と、両親の介護体験とその時の思いをもって日々の支援に努めてきた。理念にその思いが凝縮されており、何よりも「一人一人の尊厳を大切に」することがすべての支援に通じているとして、職員にも周知徹底を図り、きめの細かなサービスを志し実践している。印象的なのは、その支援に努める職員の笑顔ときびきびとした対応であり、清掃、整理整頓が行き届いたホーム内に感じられる清潔感と居心地のよさである。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価の意義と活用方法を理解し、評価後は職員会議において話し合いがなされている。改善計画シートも作成され改善にむけての検討、実践もなされている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価は全員で取り組んでいる。日々の支援の振り返りの場として、更なる向上の機会と捉え、取り組みに反映している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容とそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	開催に向けての準備時間を充分にかけて、昨年12月に第1回の会議を開催することができた。市役所(介護保健課)職員、スタッフの他、特に家族、地域の民生委員、近隣住民有志の積極的参加と協力により、活動報告の他に家族と近隣住民の対話など、有意義な意見交換がなされた。今後も会議をホームのモニター役として、地域とのつながりの場として大いに活用していかれることに期待できる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	通信「くれもだより」において活動報告がなされている。管理者は自らの体験に基づき、家族との信頼関係を深めるよう努め、面会時には入居者の様子を伝え、常に家族の思いも引き出せるように配慮し、安心と理解を得ている。意見への対応は苦情相談窓口の明示と意見箱を設置し、敬老会での交流後、職員と家族との話し合いの場を設け、ホームの方針等を改めて伝え、それに対して家族から意見を伺う取り組みも行い、運営に反映させるべく努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との馴染みの関係作りに積極的に取り組んでいる。夏の納涼祭、暮の餅つきはポスティング等により近隣に呼びかけ、好評により年々参加者は増えて入居者、家族にも喜ばれて定着しつつある。継続に努めたこの取り組みにより得られた地域との馴染みの関係が、日常の機会にも更に広がり、ホームへの理解・協力が深まることが期待できる。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人一人の尊厳を大切に」の理念には、管理者の経験により入居者個々のそれまでの人生を敬い尊重し、これからの人生を大切に共に過ごしたいという思いが込められている。地域の中でその理念のもと、入居者の人生の場面に携わらせていただくことに喜びをもって支援に努めている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の文言は、リビングや目に付きやすい場所に掲示され、大変わかりやすい。又、管理者、職員は、申し送り時、月一度のミーティング時における確認を欠かさず、日常いかなるときも「尊厳」の言葉を心にとめ、日々理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設当初よりの夏の納涼祭、暮の餅つきは、継続の努力により地域の名物行事として定着、好評である。多くの方がホームに集う機会があることで、近隣の方が立ち寄り、作った野菜を差し入れて下さったりと馴染みの関係が作られている。自治会加入に関しては、行政に相談をしつつあきらめることなくアプローチを行った。継続した取り組みにより近隣との交流に今後も期待できる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員会議において現場の細かい点を職員全員で項目を確認し、職員は各自気づきをあげ、項目の内容により管理者がまとめることで全員で回を重ねて取り組んだ。評価後は職員会議において全員で話し合い、初心に戻り、現状に満足することなくサービスの質の向上に向けて確認している。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年12月に第一回目の会議を開催した。会議メンバーにおいては、地域の近隣住民の方5名の参加協力があり、家族との対話も生まれホームの周知、理解にとって有意義なものとなった。活動報告、課題の協議等を議題とし、まずは4ヶ月に1回をめでに今後も会議の活用を目指していく。		

グループホーム くれも

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議開催を通じて、並びに地域とのつきあいにおいて自治会参加に関する相談を市役所職員へ積極的に行った。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム通信を二ヶ月に一回発行し、金銭管理の報告と合わせて利用請求書と共に郵送している。通信においては活動報告等が行事、出来事別に詳細に伝えられわかりやすい。家族面会時には個別の様子を口頭で伝え、必要に応じて電話により心身の変化の状況を伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談、苦情窓口を明記し、ホーム内には意見箱を設置する配慮がなされている。管理者は家族との親密な関係構築に努め、その中で面会訪問時には思い、意見を伺うようにしている。さらに敬老会では交流会の後に家族会を開催し、意見要望表出の場面作りに取り組んでいる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間での移動はない。職員の離職を防ぐためにも勤務条件に配慮したストレスの少ない働きやすい環境に配慮して、入居者にとって馴染みの関係による安心できるケアとなるようにしている。又、交流会の折に、家族へは職員紹介を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修においては開催案内等は必ず告知し、ホーム内の人的配置が可能な限りで参加している。研修受講後は職員会議にて報告し情報の共有化に努めている。管理者の知人である看護師、理学療法士がボランティア協力で実地指導をおこない職員の支援に関して指導する機会もある。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の連絡協議会には現在加入していないが、知己のホームとは情報交換等の交流はなされている。その中で、開設者講習で知り合った管理者同士から始まった県北のホームとの交流は緊密であり、食事会、交換研修がなされ職員間の交流も活発な取り組みが図られている。		

グループホーム くれも

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居者並びに家族に安心して納得して入居して頂くために、ホーム内見学を始め自宅、病院を訪問し、面談を重ね配慮している。馴染まれるまで傍らでの見守りも心がけて努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、理念である尊厳を大切にすることを心を持って入居者と接し、年長者として入居者が語られる生活、人生についての心がけ等に、耳を傾ける機会がある。管理者も業務より会話優先にという指導をもって職員と入居者の関係作りに配慮している。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時の聞き取りにより現在に到るまでの生活歴をセンター方式等利用しまとめ、その後も日常の様子、会話から変化、意向を追加し、スタッフ全員が共有し把握しやすい記録としている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者、家族の意向を取り入れながら、職員全員の意見も反映させて、経過表をもとに介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは、定期的に3ヶ月に1度を目途に行ない、計画に対するモニタリングと評価を実施している。変化がある場合は、期間に関係なく随時ケアカンファレンスを行い計画の見直しを行っている。</p>		

グループホーム くれも

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接するデイサービス内の歩行訓練等のリハビリ施設を利用している。入居者の希望による冠婚葬祭に伴う外出の支援もなされていて、孫の結婚式に参加することが出来た入居者、家族から喜ばれた事例等がある。又、介護ヘルパーの実習も受け入れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の希望に沿ったかかりつけ医への受診支援がなされている。ホームの提携医療機関の往診も月に二回あり、安心できる医療連携体制をとっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	一年に及ぶターミナルケアに携わり、看取りをおこなった。24時間体制の医療連携と、家族の泊まりこみの協力のもと、職員は家族への配慮を含めた支援に努めた。入居者の残された時間を大切に、何が出来るかを考え支援し職員は様々な学びを経験し、家族からも深い感謝をうけた。		ホームとしての看取りに対する指針を文書として明示することで、本人、家族との意思確認の際に、より安心と信頼を得て、職員との対応指針の共有化を図ることができる。ホーム、本人、家族の方針の統一を明らかにしておく為に、看取りの指針の作成が望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報、記録等の書類は、事務室の施錠できる棚にきちんと整理、管理がなされている。言葉かけは職員への指導を徹底し、各自気をつけている。同姓の入居者が何人かおられ日常は名前でお呼びすることがあっても、家族がいらっしゃる際は失礼にならないよう名字でと細かな配慮を怠らないようにしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人の状態、ペース、希望を見極めながらの支援に努めている。例えば、日々のレクリエーションの時間も一律に体操、ゲームと皆同じことに取り組むのではなく、その見極めに沿って、入居者を尊重しながらの支援を行うようにしている。		

グループホーム くれも

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、職員も共に会話を交え和やかに楽しく食事をされている。家族の手作りのランチョンマットが敷かれた温かな雰囲気のある食卓は、行事食を取り入れたメニューが並び、食事の準備ではマットを並べたり、野菜の下拵えをされたり、後片付けの出来るかたは下膳を手伝われている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、2ユニット交互に週3回を目途に実施されている。入居者の希望、状態に応じて日時を変更したり随時柔軟な対応もされている。入浴されない日も清拭、下着の取替えは毎日行い清潔保持に心がけている。二つある浴室のうち一つは将来を見据えてリフトバス設置が可能なように準備がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクリエーションの中において習字、折り紙、塗り絵、ちぎり絵等の機能的訓練も兼ねた楽しみごとの時間となるよう配慮している。趣味として編み物、裁縫、読書、園芸をされたり、役割として掃除、食事の準備と後片付けをされているが、継続を目標に支援に努めている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への散歩や、ホームの買い物に同行したりと日常の外出はなされている。玄関先のポーチにはベンチもおかれ日光浴等で寛げる。年間を通じマイクロバスを借りて郊外への外出も多く、花見、みかん狩り、ホテルでの会食など季節に応じ計画、実施され入居者も楽しみにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠されていない。入居者、訪問者も自由に出入りできるよう開放されている。入居者の外出には安全に細心の注意を払い、サインを見逃さずさりげない見守りを心がけている。玄関から道路に出る手前にデイサービス施設があり、そちらの職員からの見守りもある。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署職員立会いの訓練の他、職員会議の後に夜間想定で職員入居者共に、全員での火災避難訓練を年に3回実施している。訓練記録は写真も添えて、反省点等まとめられ振り返りもされている。		火災に対する備えは十分になされているが、加えて地震等の災害対策マニュアル作り、訓練も望まれる。更に万全を期す為にも、今後災害に備えての備品、備蓄、重要持ち出し品の確認を再考、検討されることに期待したい。

グループホーム くれも

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、栄養士により作成されている。現在は対象者はおられないが、糖尿病等の治療食も医師の指導を仰ぎ対応し、キザミ等の形態食の対応もされている。水分摂取に関しては、三食時、三回のおやつ、お茶の時間、入浴後に勧め、居室にもペットボトルで用意したりと一日1,500cc摂取を目標に配慮がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井のトップライトからさす明かりが、広々としたリビングをさらに心地よく暖かにしている。食卓、ソファも寛げる配置で終日を過ごす入居者も多い。目線に配慮したカレンダー等の掲示、一日の献立表のボードや、季節を感じられる雑飾り、花々に細やかな気配りがなされている。又、玄関、浴室、トイレにいたる隅々まで清掃が行き届き、清潔感に日常の職員の努力が伺える。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドは備え付けであるが、持ち込みの筆筒、鏡台をはじめとする家具、調度品が多く、「その人らしさ」が十分に感じられる居室である。スペースもあり明るい室内は、入居者の個性、暮らし方が、それぞれに壁の掲示、小物の飾りつけ、職員から贈られた手作りの写真立てに垣間見られる。ポータブルトイレは、夜間にのみ置くようにされている。共用空間同様に清掃、換気が行き届き居心地のよい支援がされている。		